

医療事故調査委員会報告書における主な用語

■コンピューター断層撮影 (CT : Computed Tomography)

X 線を使用して体のさまざまな部分の詳細な断面画像を作成する医療画像技術を用いた画像検査の一つ。コンピューターがこれらの画像を処理して一連の2D断面(輪切り)スライスの画像を作成し、これらを組み合わせて検査領域の3D(立体)画像形成可能で2D画像で判断できなかった病変を発見しやすくなります。しかし、3D画像作成には画像処理時間が必要になり、結果を確認するためには時間がかかります。

■グラスファイバーギプス

ギプスは、骨折や靭帯損傷などの場合に患部が動かないように、外から固定・保護するために使用されます。現在のギプスの主流は、グラスファイバーであり、初めはべたべたしたシート状ですが、水に濡らすと反応して発熱し硬化します。以前の素材に比べて、軽くて使いやすいのが特徴です。

■バイタルサイン (Vital signs)

人間が生きていて活動していることを示す重要な指標のことです。代表的測定項目に血圧、脈拍、呼吸数、体温、SpO₂などがあります。医療現場ではバイタルサインを日々記録することで通常時状態を把握し、状態変化の早期発見につなげます。

■心拍 (HR : heart rate)、脈拍 (PR : pulse rate)

心拍は心臓が一定時間に収縮する回数、脈拍はその心拍により指先で触れてわかる動脈の拍動のことです。両者は通常は一致しますが、不整脈等により異なることもあります。

■経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂)

肺から取り込んだ酸素は、赤血球に含まれるヘモグロビンと結合して全身に運ばれます。SpO₂とは、心臓から全身に血液を送り出す動脈の中を流れている赤血球に含まれるヘモグロビンの何%に酸素が結合しているか(酸素飽和度)、皮膚を通して(経皮的に)調べた値です。健康な方であれば96%~99%。90%以下は呼吸不全の状態であることが一般的ですが、原疾患によっても判断基準が異なります。

■血圧 (BP : blood pressure)

血管、特に動脈の壁に対して血液により加えられる圧力のことです。心筋の強さ、血液量とその粘度、年齢や健康状態、血管壁の状態などによって変化します。

■BiPAP (二相性陽圧呼吸補助装置)

BiPAP(バイパップ)は、呼吸が弱くなったときに空気を送り込み、呼吸を助ける医療機器です。息を吸うときと吐くときで圧力を変え、肺に空気が入りやすくなるよう補助します。人工呼吸器より負担が少なく、主に自力呼吸がある人の呼吸補助に用いられます。

■呼吸数 (RR : Respiratory rate)

単位時間当たりに行われる呼吸の数。医療、看護、介護の分野で、患者、利用者の健康状態を把握するためのバイタルサイン・チェック項目の一つです。

■バックバルブマスク (BVM)

口や鼻、気管切開部から手動で空気や酸素を送ることができる人工呼吸器具です。心肺蘇生の一環として使われることが多いです。

■アドレナリン

アドレナリンは、心臓が止まったり、血圧が著しく低下したときに使用される救急薬です。心臓の動きを強め、血管を収縮させて血圧を上げる作用があり、心肺蘇生の場面で広く用いられます。いわば「止まりかけた循環を再び動かすための薬」です。